

戦争を止め社会を変える力がここに！

11・3全国労働者総決起集会報告



全国・全世界から
日比谷野音に3000人結集！

11月3日、動労千葉・関西生コン支部・港合同の3労組が呼びかける全国労働者総決起集会／改憲阻止！1万人大行進が東京・日比谷野音音楽堂で開かれ、昨年を上回る3000人が結集した。その多くが、全国で反戦デモやストライキ、抗議行動を体を張って闘ってきた仲間だ。全学連も100人以上参加し、ともに米日政府による中国侵略戦争阻止の決意を固めた。「戦争を止め、社会を変える力がここに」…この社会を動かしている労働者・学生が団結すれば必ず戦争を止められる。全ての学生は全学連に結集して反戦闘争に立ちあがろう！



↑韓国・金属労組旭支会



↑集会後、首都東京を席卷するデモ
←ブラジル、ドイツ、イタリアの組合労働者

先の総選挙が示したものは、戦争に突進するとともに、戦争に国力の一切を集中するため増税や物価高騰で人々を生活苦にたたき込んでいる自公連立への根底的な怒りだ。支配階級の政治危機の深さは、戦争と新自由主義に対して労働者階級の総反撃に立つ絶好機を示している。だが議会内では、国民民主党や立憲民主党や維新、さらには日本共産党が中国への排外主義をあり、戦争翼賛に転落している。それが石破政権の存続を支えているのだ。この我慢ならない現実を生み出した最大の元凶は、一切の闘いを放棄し、戦時経済化による「賃上げ」さえ容認する連合の裏切りだ。

11・3集会は、沖縄・琉球弧を地獄の戦場とする中国侵略戦争を絶対に阻止するために新たな安保・沖縄闘争をつくり出すとともに、集会を呼びかけた3労組への組織破壊攻撃を粉碎し、戦争反対の砦（とりで）として階級的労働運動をよみがえらせる固い決意を共有した。

集会では呼びかけ3労組からの発言、国策と闘う三里塚や沖縄・広島・福島の間、全国の職場で闘う労働者の発言などが続いた。とりわけ、韓国をはじめ全世界から自国政府の戦争政策と闘う労働組合が連帯し、国際反戦集会として勝ち取られたことは決定的だ。闘う労働者の国際連帯にこそ、世界戦争を止める展望がある。

11・3から2日後の11月5日が投開票だった米大統領選は、トランプの「圧勝」という結果になった。「民主主義陣営」の盟主を自認するアメリカにおいてトランプのような現状破壊的・ファシスト的人物が再び大統領になること自体が、アメリカ帝国主義の歴史的没落の証だ。今後、政治的・社会的な混乱、米経済の危機が激化する中で、いよいよ国家的存亡をかけて中国侵略戦争に突き進むことになる。

トランプ当選に対して石破首相は即座に電話会談で「日米を更なる高みに引き上げたい」と語り、米帝と一体で中国侵略戦争に突き進むようとしている。少数与党に転落した石破は、中国・北朝鮮・ロシアなどへの排外主義を最大限に煽り立て、拳国一致体制を作る以外に延命の道はない。そしてこの中国侵略戦争に真っ向から反対する勢力は国会内には存在しない。戦争を止める展望を持っているのは、唯一、11月集会に集まる勢力だけだ。70年闘争を超える反戦デモとストライキの嵐を作り出し、石破を打倒して中国侵略戦争を阻止しよう！

11/30 梅田反戦デモ

18:00~@豊崎西公園

12/13 全国学生反戦集会@京大

12:00~@京大吉祥南キャンパス・時計台前広場

基調報告

動労千葉委員長

関道利さん



今回の衆院選では自民党が大敗しました。自公は比例区の票も激減させ、どちらも過去最少の得票です。維新も自民の次に得票を激減させ、共産党も公明に次ぐ減少です。議席をもっとも増やした立憲は、比例区得票はほぼ増えていません。比例票で国民民主が維新を抜き、れいわは共産を抜いています。投票率は戦後3番目に低く、半数近い人は投票自体をボイコットしました。これまでの政治構造全体にNOの声が上がっています。この底に流れているのは、社会にたいする積もりにも積もった怒りです。

新自由主義は、社会的な連帯や団結を解体し、労働組合を攻撃し、労働者の権利を奪い、生活を破壊してきました。それは医療や教育をはじめ、社会の底が抜けるような崩壊にまで行き着いています。岸田政権下では、安保3文書改訂から大軍拡と敵基地攻撃能力保有、軍需経済へ舵を切り、ヒロシマの名で核を正当化するG7サミットを強行し、原発の最大限活用を「国の責務」とする法改悪に踏み込みました。沖縄・南西諸島のミサイル基地化・軍事拠点化が急速に進められ、今年4月の日米首脳会談以降は、実際に中国を敵国として戦争を遂行するために、米軍との一体化を次々に具体化し、核抑止まで打ち出しました。

戦争への怒り、新自由主義への怒り、溜まりに溜まっていた怒りが政治の場でも流動化を生み出しています。石破は首相になって早々、まともに多数派を作ることもできない状況に追い込まれています。支配階級の政治支配の危機です。つまりわたしたち労働者階級にとっては、闘いを前進させる絶好のチャンスです。

資本主義の総本山であるアメリカも、国内支配さえグラグラです。イスラエルに虐殺をおこなわせ続けるバイデンやハリスに怒りが爆発し、人生をかけたデモやスト、座り込みの闘いが叩きつけられています。労働組合の腐敗した指導部を現場労働者の闘いが揺さぶり、労働運動の歴史的な再生の展望が開かれています。

今回の選挙では、本当に重要なことは焦点にされませんでした。「国を守れ」という愛国主義と排外主義のもと、戦争に突き進んでいく攻撃との対決こそ、本来の最大の争点です。「中国が脅威だ」と大宣伝されていますが、対中国の大軍事演習「キーン・ソード25」は、計4万5千人の米軍・自衛隊にオーストラリアや韓国、NATO諸国などを加え、そのまま対中国戦争に突入できるような一大演習でした。アメリカであり日本の側から圧倒的な軍力で中国をうち破ろうという侵略戦争を仕掛けているのが現実です。

東アジアから始まろうとする世界戦争・核戦争を絶対に阻止しなければなりません。そのカギは日本の闘いが握っています。日本の全面的な参戦抜きにこの侵略戦争をやりきることができないからです。なにより日米同盟最大の実体である沖縄米軍基地を撤去し、辺野古新基地建設と琉球弧のミサイル基地化を許さない、新たな安保・沖縄闘争の爆発をつくり出さなければなりません。

全国の仲間たちが数十波もの反戦デモを闘ってきました。沖縄・辺野古で土砂搬入を実力で阻止し、広島で平和公園の封鎖を打ち破って原爆ドーム前の集会を断固やりぬき、10・7蜂起1ヵ年にはイスラエル大使館に実力で抗議する闘いに立ちあがり、闘いの新しい展望を切り開いてきました。石破は「改憲をやって国防軍をつくる」とか「アジア版NATOが必要だ」とか主張している人物です。わたしたちの手で石破を打倒し、世界戦争・核戦争を絶対に阻止しましょう！

求められているのは労働運動の変革です。戦争に動員されるのが労働者なら、戦争を止めるのも労働者です。労働組合は、団結と権利の拠り所であるとともに、反戦の砦です。自国政府の戦争政策と闘い、労働者同士が殺しあうのではなく国境を越えて団結し、絶対に戦争を阻止することは、労働組合のもっとも重要な任務です。

しかし日本の最大の労働組合のナショナルセンターである連合は、排外主義に加担し、中国への侵略戦争も推進する勢力になっています。

連合を組織的な基盤にしている政党が立憲と国民民主ですが、どちらもあくまで日米同盟基軸で、これを強化すると言っています。連合会長の芳野は「ストの多いアメリカと違って日本は労使一体で企業を発展させる」「企業が発展しなければ労働条件は改善しない」などと語っていますが

政府と財界が一体になって軍需産業を「防衛力そのもの」と言って莫大なカネが投じられる情勢で、「企業を発展させて賃上げを」とだけ言うことは、戦争に加担して労働者を戦争へ動員していくことと同じです。

労働者、労働組合はこれでいいのか。労働者と資本家は「水と油」の関係です。そして社会の主人公は労働者です。わたしたちの手で、連合を乗り越える階級的労働運動をつくりあげていくことが絶対に必要です。

最後に、本集会の呼びかけ三労組にたいする攻撃を、全労働者の未来のかかった闘いとして絶対に粉碎することを訴えます。

関西生コン支部には、当たり前の労働運動を犯罪にでっち上げ、次々に逮捕・起訴していくという戦後最大の労組弾圧がかけられています。港合同には、民事再生を利用した組合役員の選別解雇、労働組合つぶしの攻撃がかけられています。そして動労千葉の職場のJRでは、労働法制の歴史的な改悪、全労働者への攻撃のモデルとして「労組なき社会」化攻撃がかけられています。

関西支部が画期的な産業別労働運動をつくり出し、港合同が倒産攻撃に打ち勝ってきた労働組合だからこそその攻撃です。こんな闘いはもう許さないという国策、戦時下の労働組合つぶしとの対決です。これは「戦争を止め、社会を変える」大きな闘いです。すべての仲間の力を結集して、この闘いにならず勝利しなければなりません。

絶対に戦争を阻止するために、街頭で実力で闘い、職場からストライキを組織し、階級的労働運動をなんとしても再生させましょう。

決意表明

全学連委員長

矢嶋尋さん



選挙のさなか自民党本部に火炎瓶が投げ込まれる事件が起きました。この3年選挙のたびに、安倍や岸田にたいし、連続的に銃弾や爆弾が投げ込まれています。これらを見た多くの人々が「これくらいのことでは起きて当然だ」と言っています。

その一方で与野党は口を揃えて「民主主義が暴力に屈してはならない」なんて言っていますが、

日本政府こそがガザ虐殺を支えて、ミャンマー軍を支援して、そして反戦運動や労働組合を圧殺して、沖縄・南西諸島をミサイル基地にして、中国侵略戦争に突き進んでいる「暴力」そのものじゃないですか。こいつらの言う「民主主義」なんてものは、今すぐにでも破壊しなければなりません。腐り果てた政治、生活破壊、そして戦争にたいする煮えたる怒りは地に満ちています。この怒りをひとりの行動ではなく、数千数万の団結した行動として、階級的労働運動の旗のもとにひとつの力にまとめあげていきましょう！

この約3年あまり、わたしたちは大衆の実力闘争をよみがえらせることに力を入れてきました。今年の5月沖縄・辺野古で土砂搬入を座りこみで阻止しました。そして8月6日のヒロシマでは、広島市当局と機動隊による「集会禁止」を徹夜の座り込みで粉碎して、原爆ドーム前での集会を実力で勝ち取りました。

この実力の闘いのなかで、新入生をはじめとした新たな仲間が次々と人生をかけて合流してきてくれています。今年9月の全学連大会では、この3年あまりで運動に加わった仲間を中心として、新執行部を確立しました。わたしたちは赤嶺前委員長のもとで切り開いてきた安保・沖縄闘争の地平をまっすぐに引き継いで、中国侵略戦争阻止の反戦闘争を70年闘争をこえる規模でつくり出す決意です。

新体制のもとで、10.7パレスチナ蜂起1ヵ年闘争、横須賀をはじめとする反基地闘争を、全国で、機動隊と激突する内乱的な闘いとして、波状的に打ちぬいています。国家や警察は万能ではありません。社会の99%であるわたしたち労働者・学生・民衆が団結すればかならず戦争を止めることができます。

私たち青年世代にとって、戦争を止めて資本主義を終わらせない限り、人生や未来に一切の希望はありません。今日この場には、そのことを確信した仲間たちが昨年よりもずっと多く参加しています。全学連は、この隊列をさらに拡大させ、最後の勝利まで最先頭で闘います。今の野党に代わる、すべての労働者・民衆の新しい選択肢として、わたしたちの力を復権させていかなければなりません。

今こそ中国侵略戦争を阻止する新たな安保・沖縄闘争を、首都東京に巨大につくり出しましょう！社会を変える主体として、ともに闘いましょう！